

お知らせ・お招き・演題募集

研究集会《医療の質の向上を目指して》

主催 人文・社会科学振興のためのプロジェクト研究事業
プロジェクト研究 医療システムと倫理

日程 2004年1月24(土)～25日(日)

開催場所 仙台駅周辺(詳しい場所は選定中)

日本学術振興会による人文・社会科学振興のためのプロジェクト研究事業の一つとして、プロジェクト研究「医療システムと倫理」が活動を開始しました。本プロジェクト研究は、医療現場の専門家、医療系研究者と人文・社会科学諸領域の研究者が共同の場を形成し、一般市民の参加も求めつつ、個別の医療現場から社会の医療体制までを視野に収めて、諸レベルで社会の中における医療のあり方を探り、医療が今後どうあるべきかを提言することを目指すものです。

本プロジェクトは、現在、研究にいろいろなかたちで参加して下さる方を求めています。また、同じような研究をすでに進めている方たちとの交流をし、連携しつつ研究を進めたいと思っています。そこで、このような問題に関心を持ってこられた方々をお招きして、研究の現状を見渡し、これから何を研究していく必要があるかを確認するための研究集会を開催することとしました。どうぞご参加ください。また、併せてできるだけ多くの皆様に発表をしていただきたくお願いいたします(少なくとも発表者には旅費が支給されます)。2004年1月24日～25日に行いますが、国内の大方の場所から、24日朝出発し、25日中に帰ることができるような時間設定にしたいと思っています。

年末の忙しい時期に恐縮ですが、発表希望の方および参加予定の方は、別記要領でなるべく早くお申し出ください。

連絡先 プロジェクト研究「医療システムと倫理」

プロジェクト・リーダー 清水哲郎

事務局 東北大学大学院文学研究科哲学研究室

980-3213 仙台市青葉区川内 / Tel・Fax 022-217-6012

email: shimizu@sal.tohoku.ac.jp

<http://www.sal.tohoku.ac.jp/philosophy/MedSys/index-j.html>

*発表募集要領

研究集会の趣旨に沿ったテーマの発表・発言を募集します。

- ・ 研究成果の発表である必要はありません。今こういう研究をしている・しようとしている、こういう問題に取り組んでいる（事例報告や研究の中間報告） こういう問題があって研究が必要だ、といったレポートをお考えください。医療現場における個別事例をテーマにしたものから、医療機関のシステム、さらには社会の医療体制をテーマにしたものまで、また実践報告から理論的研究まで、範囲は広く考えております。テーマの目安として、次の研究項目例および後述のプロジェクト概要を参考にしてください。
 - 1 臨床倫理検討システム開発 / 事例検討
 - 2 個別医療・看護現場に特有の問題
(周産期医療、がん治療、緩和医療、神経難病等)
 - 3 専門家 - 非専門家間の合意形成の可能性
 - 4 医療・看護の方法論についての学際・協働研究
(ナラティブ・メソッドと現象学的看護論等)
 - 5 地域社会における医療ネットワークのあり方
 - 6 医療専門組織、保険者、民間保険機関の果たすべき機能
- ・ 発表者は、諸領域の研究者、現場の医療者のほか、ボランティアをしている方、市民団体の方なども歓迎します。
- ・ 発表の内容にしたがって、時間制限を 20 分、15 分、8 分、発言（4 分以内）のうちからご希望を選んでください。

*参加・発表申し込み

ご参加いただける方、発表のお申し出は、次の事項を明記の上、上記連絡先までお寄せください。内容は暫定的なもので結構ですので、できるだけ早急にお知らせいただけますようお願いいたします。

- ・ 氏 名
- ・ 職種ないし専門領域
- ・ 所 属
- ・ 書類送付先および住所
- ・ Email アドレス
- ・ 発表希望の有無

以下は発表希望の方のみお答えください。

- ・ 発表テーマないし趣旨（暫定的なもので結構です）
- ・ 時間の希望：20 分、15 分、8 分、発言（4 分以内）から選んでください
以上。

*プロジェクト研究概要

・本プロジェクト研究は、日本学術振興会 人文・社会科学振興のためのプロジェクト研究事業の研究領域（科学技術や市場経済等の急速な発展や変化に対応した社会倫理システムのあり方について研究する領域）に属するものです。

プロジェクト研究 **医療システムと倫理**

プロジェクト・リーダー：清水 哲郎

現代社会における医療の諸問題を解決し、その望ましいあり方を実現することは喫緊の課題である。これに取り組む研究には、医療技術の高度化を図る視点のみならず、科学技術を担いまたそこから益を得る人間および社会に注目する視点が必要とされる。本プロジェクト研究は、後者の視点を持つ人文・社会科学諸領域の研究者が参加する場を形成し、個別の医療現場から社会の医療体制までを視野に収めて、諸レベルで問題に取り組みつつ医療のシステムと倫理を探り、医療が今後どうあるべきかを提言することを目指す。さしあたって現場と密着した臨床倫理学研究および社会システムレベルでの実証的経済学研究を軸とする二つのコア研究を立て、他のプロジェクト研究とも交流しつつ、研究を展開する。

コア研究 **医療現場における意思決定・問題解決・協働**

グループ・リーダー 清水哲郎（東北大学大学院文学研究科）

医療の質の向上のために、意思決定や問題解決のシステムを構築し、関係者の協働体制を整備する必要がある。本研究はこのために、医療者 - 患者・家族間、医療従事者間、さらには地域における協働システムの望ましいあり方を探り、提言することを目指す。臨床倫理学を研究の核かつ現場とのインターフェースとして、関係諸領域の研究者と現場の医療者からなる共同研究グループを構成し、患者・家族の協力を得ながら、研究を進める。

コア研究 **医療システムと医療専門家組織、保険者、民間保険機関の役割**

グループ・リーダー 吉田 あつし（筑波大学社会工学系）

現在の公的医療保険システムを維持すべきか、民間医療保険を主体にしたアメリカ型システムを取り入れるべきかが医療政策上の重要な論点になっている。本研究は、医療専門家集団の果たすべき機能と専門家としての倫理について理論的・実証的に分析し、公的保険者の役割や民間保険機関の機能を分析することを通じ、医療保険システムの中で医療専門家組織、公的保険者、民間保険機関の果たすべき機能を再設計するための施策を提案する。